



[&] をテーマに 第62回金城祭をオンラインで開催

第62回金城祭が、10月23日(金)、24日(土)の2日間にわたってオンライン形式で開かれました。例年は約4,000人がキャンパスを訪れるイベントですが、今年は新型コロナウイルスの影響で、公式の特設サイトとYouTubeで動画を配信。金城学院大学ならではの企画でオンライン学祭を成功に導いた、実行委員長の横井梨愛さんと副委員長の金森成美さんに話を聞きました。



横井梨愛さん(左)と
金森成美さん(右)

新しい学祭をイチからつくろう！

第62回金城祭のテーマは[&]。人とのつながりを大切にしたい、オンライン金城祭を通して人への感謝や思いやりの気持ちを届けたいという思いを込めました。コロナ禍で学園祭を取りやめた大学も多い中、オンラインで開催しようと決めたのは、これまで続けてきた金城祭を私たちの代で中止にしたいなかつたから。初めての試みだからこそ、自分たちらしい企画ができるという思いも強くありました。具体的に動き出したのは8月の末。例年なら、1~3年の実行委員100名ほどで運営するのですが、今年は1年生がいないので、2~3年の約60人が6つの部局に分かれて準備。プログラムの企画から、タレントとの交渉、企業を回っての協賛のお願いなど全てを自分たちの手で。もちろん、ポスターや動画の制作も、企画から撮影、編集、全てをやりました。時間もない、キャンパスに集まっての打ち合わせや作業ができないという中で、みんな本当によくやってくれました。

身をもって知った、挑戦することの大切さ



いつもなら金城祭はキャンパスで行われ、どんな面白い企画も来場者しか見ることができません。でも、オンラインなら、誰でも、いつでも、世界のどこにいても見ることができます。例えば人気お笑いコンビが4組も出演した「みんなで笑TIME!」

魅力ある4人の金城生たちがプリンセスの座を競う「プリンセス金城」。



金城祭当日は特設サイトで
多彩な企画を公開！



名古屋大学、愛知工業大学などの学生とのトークセッション「他大さんいらっしゃーい！」。



1年生に向けて、金城生の学生生活や私生活、ファッションなどを紹介。

はYouTubeで誰でも視聴できる状態で配信したのですが、1日のアクセスが3,645件もあり、大反響でした。竜星涼さんのオンライントークショーはアプリで発信したのですが、これもみんなが喜んでくれました。何より嬉しかったのは、Twitterなどで「今やってるよ!」と情報を拡散してくれたり、「面白かったよ!」「実行委員の皆さん、ありがとう!お疲れ様!」と、リアルタイムでメッセージを送ってくれたこと。対面はできませんでしたが、「みんなつながっている」と実感しました。

今回の経験を通してわかったのは、挑戦することの大切さ。そして、失敗を恐れないこと。やってみよう。何でも挑戦できる自由な学生時代だからこそ、失敗を恐れず、今できることを全力で楽しもう、と。金城祭を無事終えた瞬間は感謝と感動でいっぱいでした。2021年も通常の金城祭ができるのかどうか不明ですが、どんなカタチであれ、やってほしいと思います。その時は私たちも全力で応援します。今回は実行委員の先輩たちが親身になって相談に乗ってくれ、大きな力になりました。こうした先輩、後輩のつながりも、私たちの誇りであり、財産です。





今しかできないことを ～年長児デイキャンプを通して～

コロナ禍の中、今年度は今まで通りの保育を行うことが難しく、マスクの着用やアルコール消毒、手洗い、うがいの徹底、食事の際は間隔を空けて座る…など、様々な対策をその都度考え、試行錯誤の日々です。毎年夏休み前に年長児が行っていた1泊2日の“年長児キャンプ”も、今年はどうな形にしたらいいのか、という課題が出てきました。1学期はコロナウイルスの感染がまだ広がっていたため、食べ物を扱ったり、一緒に寝泊まりするのは難しいのでは…と様々な不安がありました。けれど、子ども達は年少児の頃から、年長児がキャンプに向かって活動している姿を間近で見て、“年長さんになったらキャンプができる！”という気持ちを強く持っていました。そんな子ども達の想いを実現するため、今年は時期をずらして9月に、そして泊まりではない2日間のデイキャンプを行うことになりました。

テントやお盆、スプーンも作ったよ！

「キャンプといえばテントでしょ！」との意見から、まずはテント作りに挑戦！テントのデザインやグループ名も子どもたち同士で話し合い、決めていきました。実際にテントを立てる作業も子ども達と一緒に、当日は自分たちが作ったテントで昼食。ご飯を食べるには食具も必要ということで、お盆とスプーンづくりにも挑戦！木でお盆を作り、アルミの板をかなづちで打ち出し、スプーンの形に。当日は自作のお盆とスプーンを使って、おいしい食事を頂きました。



自分達で作った可愛いお盆。



アルミの板を打ち出してスプーン作り。

涼しいね！
ここで
お昼寝
した～い！



キャンプファイヤーに歓声！

1日目は子ども達からやりたいと声があがった肝試しを、2日目にはキャンプファイヤーと花火大会をしました。肝試しは、子どもたちと怖さを吹き飛ばすための掛け声を話し合っ決めて、おぼけをつくりたり、楽しみながら準備をしてきました。当日は、保育者やボランティアの卒園生が怖いおぼけになりきり、



肝試し会場は手作りのオバケがたくさん！



デイキャンプのハイライト、キャンプファイヤー

怖さのあまり泣いてしまった子もいましたが、クラスのお友達と力を合わせてゴールまで行けたことが、子ども同士の絆をより一層深めました。キャンプファイヤーや花火大会では、暗い幼稚園にいるからこそその経験や特別な時間に子どもたちは大興奮！思う存分夜の幼稚園を楽しみました。

今しかできないことを大切に

例年通りのキャンプではありませんでしたが、そのことに対してがっかりしたり、マイナスに感じたりする子どもは一人もおらず、自分達でやりたいこと、今できることを考え、実現できたことに大きな喜びと達成感を感じていました。そんな子ども達の姿を見て、“今まで通りじゃない”“できない”“無理かもしれない”に目を向けるのではなく“今できること”“今しかできないこと”に目を向け、一日一日を大切に過ごしていきたいと改めて感じました。

みんなで
食べると
おいしいね！



今年ならではの企画・アイデアを考え 生徒みんなで盛り上げた「大金城祭」

高校では毎年9月、しらゆり祭を開催しています。今年は新型コロナウイルスの影響で例年通りの開催を見合わせ、9月18日(金)に文化祭の代わりに「Light Up Day!!」を、9月24日(木)に体育祭の代わりに「Let's Enjoy Day!!」を実施。2つのイベントを総称して「大金城祭」と名付けました。

「Light Up Day!!」は、例年は全校生徒が講堂に集って行いますが、密を避けるために今年は講堂と教室を中継でつなぎ、リモートで実施。「Let's Enjoy Day!!」は会場を愛知県体育館から校内に移して行いました。開催までにはさまざまな困難がありましたが、今年ならではの文化祭、体育祭を作り上げることができ、「楽しかった」「ありがとう」という声をたくさん聞くことができました。



弾ける笑顔、笑顔、笑顔・・・

Light Up Day!!を終えて

私の心を Light Up してくれた「大金城祭」

Light Up Day!!当日、私の目の前にはずっと見たかった景色が広がっていました。中継企画を見ている皆さんの笑顔や歓声、生徒会企画に全力で参加してくれている皆さんの姿。その全てが私の心をLight Upしてくれました。

当日を迎えるまで、生徒会執行部と全校生徒の皆さんを繋ぐカメラのレンズは、とても分厚い壁のように見え、温度差が生まれるのではないかと、一体感が無くなってしまっているのではないかと不安でした。しかし、皆さんが全力で楽しもうとしている気持ちや、大金城祭と一緒に盛り上げようという思いは、そんな壁を感じさせないものでした。あの日私が見た景色はそんな皆さんの温かい思いがあったからこそ生まれた景色でした。

大金城祭を迎えるまでの道のりは決して容易ではありませんでしたが、私の周りにはいつも前を向いて頑張っている生徒会の仲間がいました。その姿を見て、できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向け、今年ならではの文化祭を作ろうと考えるようになりました。「大金城祭」という新たな道を切り拓き、ゴールに向けて仲間と駆け抜けてきた日々が、あの日景色をより綺麗なものにしてくれました。全力で盛り上げてくれた全校生徒の皆さんの心も、この行事を通してLight Upできていたら嬉しいです。

しらゆり文化常任委員会委員長
3年 小川 桜瑚

▼ポーズde金城(与えられたお題のポーズをし、ポーズが揃った人数を競うゲーム)を講堂で行っている時に、クラスで中継を見ている生徒も一緒に参加。



▲パイレーツ・オブ・金城(校内に隠された宝箱を見つけ、宝箱に入っている問題をクラスで協力して解く)のひとコマ。

Let's Enjoy Day!!を終えて

かけがえのない友と作り上げたLet's Enjoy Day!!

2020年9月24日午後1時55分、高校3年生最後の競技の終了時間が近づいている。数か月もの時間を費やして作り上げてきたLet's Enjoy Day!!が間もなく終わる。この様子を指令台から見ながら、私はある思いを胸に抱いていた。新型コロナウイルスの影響で世の中は大きく変わり、ほぼ全ての学校行事、イベントも「例年通り」が不可能に。しらゆり祭中止の発表から自分たちでゼロから企画を立ち上げ、細かい内容を決めるのは想像以上に大変でした。特に苦労したのは情報の共有。当初、私は一人で突っ走ってしまい情報の共有がうまくできませんでした。結果、多くの仕事を一人で抱え込み、途方に暮れていた時、ふと気付きました。そうだ、頼ればいいんだ、と。仕事を分担し、「みんな」で参加して楽しい時間を作る。これこそEnjoy(Enjoy+join)なのだから。Let's Enjoy Day!!を通して、私は2つのことを学びました。ひとつは大きなプロジェクトを作り上げる楽しさ。そして仲間を信頼すること。みんなで目標に向かって進む絶対的な安心感は、生徒会で過ごしたからこそ得られたものです。あの時、指令台で感じたのは、ひたすら「楽しい!」という気持ち。仲間とともに作り上げた日々が形になり、たくさんの笑顔を生み出したことに、例えようもない喜びを感じていたのです。

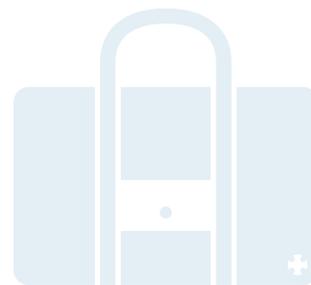
運動常任委員会委員長
3年 三沢 恵



▲普段やったことのない競技も複数企画。応援にも力が入ります。



▲生徒たちはどの競技にも懸命に挑み、熱気あふれる一日となりました。



金城生の自覚と誇りを再認識した 2020年「恵愛祭」&「体育祭」

今年度の恵愛祭、体育祭は新型コロナウイルス感染防止対策を最優先に、一般公開は中止。恵愛祭は校内で密を避けたプログラムで、体育祭は例年の愛知県体育館での開催を見送り、校庭での開催となりました。例年とは異なるカタチでの開催となりましたが、いつもと違うからこそ「感謝」と「感動」がいっぱいの日々を過ごすことができました。



コロナ禍の中で見つけた新しいカタチの「恵愛祭」

「コロナ禍の中で送る今年度の学校生活。それをいつまでも嘆いては前に進めない。例年のような恵愛祭ができないならば、いっそコロナ禍の中の2020年にしかできないことをしよう！」そんな生徒会執行部の思いで準備が始まった恵愛祭。生徒会では以前から途上国の子供たちへの支援をしています。生徒たちの頭をよぎるのは「途上国の子供たちはこのコロナ禍の中で、どんな暮らしをしているのだろう」という思い。もしかしたらマスクが不足しているのではないかと。マスクが供給されれば、感染拡大の防止にもつながるかもしれない。全校生徒が1人1枚マスクを作れば、約1000枚のマスクが集まる。それを途上国へ送りたい……。試行錯誤しながら準備を進め、やっとの思いで迎えた恵愛祭。今回のマスクの送付先、カンボジアとスリランカについての調べ学習に始まり、カンボジアのNPO団体の方とのリモートによる質疑応答、そしてマスクの手作り。どのプログラムにも生徒たちは真剣に取り組んでくれました。

2020年度の恵愛祭のテーマは「超」。恵愛祭を通して、生徒たちはそれぞれ何かを超えられたのではないのでしょうか。それは日本とカンボジア・スリランカを隔てる国境であったり、自分の心の中に巣くう遠い国々に暮らす人々への無関心であったり、さらには、中学生の自分にできることは何もないと決めつけてしまう限界であったり。生徒が作った約1000枚のマスクを前にして、「超」えられた——確かにそう思います。



iPadを使ってカンボジアとスリランカについて調べ学習。



Zoomを使ってカンボジアのNPO団体の方にインタビュー。



全校生徒が1人1枚のマスクを手作り。約1000枚のマスクは形も大きさまちまちですが、その1枚1枚にまだ見ぬ隣人への思いが込められています。



呼吸を合わせて演技を披露した3年生による「創作ダンス」。



全力で取り組み、全力で応援。 秋晴れの空の下で開催した「体育祭」

例年とは違い、雨が降るとできなくなってしまう体育祭。体育祭の前の週から、生徒たちも先生方も、いつも以上に天気予報を気にしていました。でも、そんな悩みも当日の空がすべて解決。体育祭は予定通りグラウンドで、しかも学年ごとで行う形式で行われました。生徒たちが盛り上がるのができるのか気になっていましたが、体育の先生方の工夫で、1年生は「金城体操」、2年生は「コマの動き」、3年生は「創作ダンス」と例年通りの演技を行い、生徒たちは満足そうな表情を浮かべていました。「大縄」や「ボール運び」の競技ではクラスが一致団結してクラス対抗戦に臨み、大いに盛り上がりました。今年度は多くの学校で様々な行事が中止を余儀なくされていた中、みんなで盛り上げた今年ならではの体育祭は、きっと生徒たちの心の中にも強く刻み込まれたことでしょう。